

建設経済の最新情報ファイル

RICE monthly

RESEARCH INSTITUTE OF
CONSTRUCTION AND ECONOMY

研究所だより

No. 442

2026 1

CONTENTS

視 点 ・ 論 点	年頭に当たって	1
寄 稿	相模原市のまちづくりについて	2
研究 所 か ら	インド建設産業振興評議会 事務局長の表敬訪問	10
研究 所 か ら	建設経済研究所 講演会（開催報告）	12
研究 員 ノート	命を見せる動物園の作り方	13



一般財団法人 建設経済研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-25-33 フロンティア御成門 8F

Tel: 03-3433-5011 Fax: 03-3433-5239

URL: <https://www.rice.or.jp/>

年頭に当たって

理事長 吉田 光市

明けましておめでとうございます。

昨年 10 月 7 日付で理事長に就任致しました吉田でございます。1982 年 4 月に旧建設省に入省し、建設業課を振り出しに、その後、入札契約制度企画指導室長、建設業課長、建設流通政策審議官と計 8 年間、36 年余の公務員生活の中で最も長く建設産業関係の仕事に携わって参りました。そして今回再び建設産業とのご縁を頂いたことに深く感謝し、その更なる発展に微力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

入省当時からの四十数年を振り返ってまず感じることは「建設産業を取り巻く環境の激変」ということです。大胆な表現になりますが、それは「供給過剰」時代から「供給制約」時代への転換ということです。そしてそのエポックは 2008 年と 2011 年にあると思います。

2008 年をピークに我が国は古今東西例を見ない急激な人口減少局面に入りました。建設産業に限らず、我が国全体で深刻な人手不足状態に入っています。一方、2011 年には東日本大震災がありました。以後その復興とともに我が国の国土強靭化が大きな課題となっています。更に翌 2012 年には笹子トンネル崩落事故があり、インフラや建築物の老朽化対策も本格化します。1992 年をピークにその後ほぼ一貫して減少を続けた建設投資は、2010 年を底にして現在まで増加傾向にあります。年々歳歳老朽化は進展し、歳歳年年人口減少は進みます。「供給制約」の状況は間違いなくここ数十年は続く、むしろより厳しくなると考えられます。

入省前年の 1981 年にいわゆる「静岡談合事件」がありました。以後、いわゆる「供給過剰」状況の中で、入札契約制度の改革等を通じ、談合的体質からの脱却を図り、「技術と経営に優れた企業」が生き残れるような環境を整えることが大きな政策課題でした。私が建設業課長（2005～2008 年）の時の 2006 年にいわゆる「脱談合宣言」があり、この大きな問題に一区切りがつきました。その後、建設流通政策審議官（2013～2015 年）の時には、いわゆる第一次の「扱い手三法」が成立し、既に扱い手確保が最大の課題となっていました。

国土強靭化や老朽化等の建設需要にしっかりと応え、先人から引き継いだ住宅・社会資本に我々の世代でしっかりと必要な手を加えて次世代に引き継いでいくことは、建設産業界全体の大きな責務であると考えます。このため、人材の確保・育成や AI・DX の活用等による生産性の向上等建設産業全体の供給力の向上が待ったなしの課題になっています。

人口減少を最大の課題と認識し、我が国の成長戦略の加速を標榜する高市内閣の発足は、建設産業界のこうした取り組みの追い風になると考えます。今年の干支は「丙午（ひのえ・うま）」です。「丙」も「午」も共に、陽の「火」を表し、大変活力に満ちた年回りと言えるようです。今年一年が建設産業界にとって実り多い一年となることを願って已みません。当研究所も調査研究活動等を通じて些かなりとも貢献していきたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

相模原市のまちづくりについて

相模原市 都市建設局長
鈴木 延明

はじめに

2024年8月から相模原市役所で都市建設局長をしております鈴木と申します。

本稿では、現在相模原市役所で取り組んでいる3つのまちづくり事業の概況について、報告させていただきますが、冒頭、簡単に相模原市の紹介をさせていただきます。

相模原市は、神奈川県北部に位置し、2024年に市政施行70周年を迎えました。1955年に制定した工場誘致条例によって、ものづくり産業が集積してきたこと、2006年、2007年に津久井の4つの町と合併したことなどによって、70年前に8万人だった人口は、現在72万人となっています。



2010年4月に政令指定都市へと移行し、南区、中央区、緑区の3つの区が誕生しました。北に位置する緑区は、リニア中央新幹線の駅ができるところで、神奈川県民が使う水の約6割を提供する水源地でもあります。小原宿本陣（参勤交代で大名が宿泊した施設）や県立藤野芸術の家などの歴史・文化資源があり、民間テーマパークやキャンプ場も人気です。

中央区は、市役所や税務署等の官公庁、文化施設が集積する市の行政・文化の中心地です。JR相模原駅をはじめ交通利便性に優れ、商業、住宅、産業が調和した都市機能を備えています。また、青山学院大学、麻布大学、桜美林大学、淵野辺公園、JAXA相模原キャンパス等が立地し、にぎわいと学術的な特色が共存する地域です。

南区は、市内最大の人口を有し、相模大野駅・小田急相模原駅周辺を中心に商業・業務機能が集積する、活力ある都市拠点です。相模女子大学や女子美術大学、北里大学が立地するとともに、相模原ギオンスタジアムや相模原ギオンアリーナ等のスポーツ拠点も立地しています。毎年5月4日、5日に行われる「相模の大凧まつり」が有名です。

I. 橋本駅南口におけるリニア中央新幹線駅設置と新たな都市拠点の形成

(1) 橋本地区の概要

橋本駅は、1990年に京王相模原線が全線開業し、JR横浜線、JR相模線の3線が交わる交通結節点として発展してきました。2013年、JR東海がここにリニア中央新幹線「神奈川県駅(仮称)」を設置することを発表し、工事実施計画への国土交通大臣による認可を経て、2019年より、県立高校跡地において駅函体の設置工事が進められています。

県内には、中央道と圏央道、東名高速がありますが、橋本駅は圏央道の相模原インターチェンジまで6kmという近さにあり、国道16号も至近であることから、駅から車で1時間の範囲内に985万人もの人口を有しています。

リニア開業後は、品川まで約10分、名古屋まで約60分でつながり、速達性が飛躍的に向上することから、今後、橋本が相模原とともに、首都圏南西部の広域交流拠点となるよう、道路ネットワークの整備や駅周辺のまちづくりに取り組んでいます。



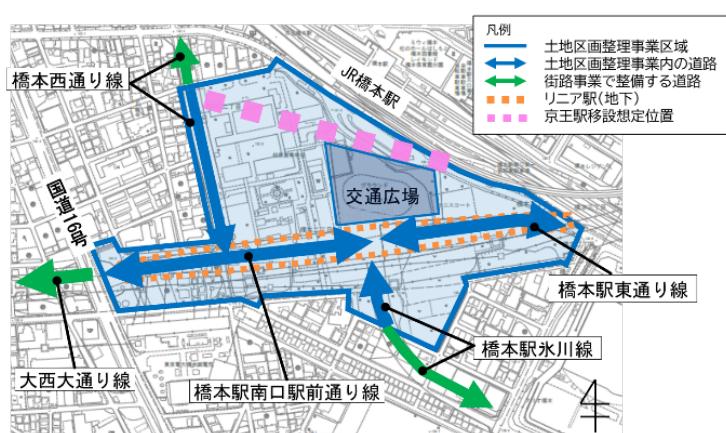
(2) 橋本駅南口地区土地区画整理事業等

橋本駅南口では、リニア中央新幹線の駅の建設に合わせて、基盤整備を進めています。

2025年9月25日付で、「橋本駅南口地区土地区画整理事業」に関する国土交通大臣の認可があり、独立行政法人都市再生機構を施行者とする約13.7haの土地区画整理事業がスタートしました。

2035年度の事業完了を予定している同事業では、駅と街区が融合した「駅まち一体のまちづくり」に向け、駅前広場や公園、道路整備等の公共施設整備と土地利用転換の一体的推進により、賑わいや回遊性のある都市空間の形成を図ることとしています。

また、市においても、圏央道相模原インターチェンジから橋本駅へのアクセス性の向上を図るために大西大通り線をはじめ、駅周辺に5つの都市計画道路を整備しています。





（3）橋本駅南口地区の将来像

橋本駅周辺のまちづくりに当たっては、市民の皆様をはじめ、企業、各行政機関、関係団体等と「まちの将来像」、「まちづくりの誘導方針」を共有し、多様な主体との連携・協働によるまちづくりに取り組むことを目的として、2023年11月に、「相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン」を策定しました。

まちづくりのコンセプトを「リニアでつながる 一歩先の未来を叶えるまち橋本」とし、このコンセプトを支える3つの柱として、テクノロジー、プラットフォーム、グリーンライフを掲げています。

①テクノロジー：広域の産業・研究開発機能と連携する拠点を形成すべく、ロボットや航空宇宙、生活支援技術、ICT等の先端技術がそばにあるまちを目指すものです。暮らしを変える先端技術の拠点となるよう、広域の産業・研究開発機能と連携する拠点を形成し、生活支援技術をはじめとした、先端技術がそばにあるまちを目指します。

②プラットフォーム：リニアがもたらす人々の交流や活動の圏域の拡大を生かし、まちに集まる多様な人々をつなぎ、出会いの連鎖を引き起こすことで新たな価値を創造します。

③グリーンライフ：都市部での脱炭素型まちづくりと豊かな自然環境との連携により環境共生型ライフスタイルの実現を目指します。

また2025年11月には、上述のまちづくりガイドラインを踏まえて、土地利用のイメージをお示しするとともに、「リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略」を公表しました。まちづくりと連動した産業振興施策を更に推し進め、研究開発都市への進化を目指すため、ロボットや宇宙といった先端領域への注力や広域連携が特徴となっています。



注) このイメージ図は、まちづくりガイドラインに記載の内容を踏まえて本地区の将来の土地利用をイメージしたものであり、施設配置や高さなど、具体的な開発計画に基づくものではありません。

II. 相模原駅北口における相模総合補給廠一部返還地の活用と新たな都市拠点の創出

(1) 相模総合補給廠の一部返還に係るこれまでの経緯

相模総合補給廠（196.7ha）は市内に3つある米軍基地の1つで、JR横浜線相模原駅・矢部駅間沿線の市街地に位置していることから、計画的なまちづくりを進めていくうえでの大きな障害となっています。

市民生活にも様々な影響を及ぼしていますが、米軍再編による地元の負担軽減として、2014年9月30日、JR横浜線相模原駅の北側約17haが日本政府に返還されました。この返還された17haのうち、2haは、鉄道・道路用地として返還され、現在は南北道路として暫定供用されています。また、

返還地の北側にある約35haは、2015年12月2日に共同使用が開始され、そのうち10haは、2020年11月に相模原スポーツ・レクリエーションパーク（運動公園）として開園し、現在多くの市民が利用しています。

市では、一部返還地の土地利用に向けた国との協議を進めるため、「相模原駅北口地区土地利用計画」の策定に向けた検討を進めてきました。2024年7月には民間提案募集を実施し、多様な提案を寄せていただいたところです。これらの提案や有識者を交えた検討会議での議論を踏まえ、2025年8月に「相模原駅北口地区土地利用計画」を取りまとめ、同年10月に市長から、土地所有者である財務省の関東財務局長に対して同計画を提出しました。

（2）相模原駅北口地区土地利用計画の概要

①まちづくりの基本方針等

当該地区は、鉄道駅前の大規模な更地であり、相模原駅周辺地区全体の今後の発展の起爆剤としての役割が期待されています。

橋本駅周辺地区とともに、首都圏南西部の広域交流拠点の一翼を担うため、民間活力を最大限に活かしながら、本地区の価値を高める土地利用を展開する必要があります。

そのため、本地区のまちづくりは、橋本駅周辺地区と連携し、本市の活力・にぎわいの創出や産業創造をけん引するとともに、定住人口のみならず昼間人口の増加を図り、持続可能な都市経営に寄与することを目指すこととしました。

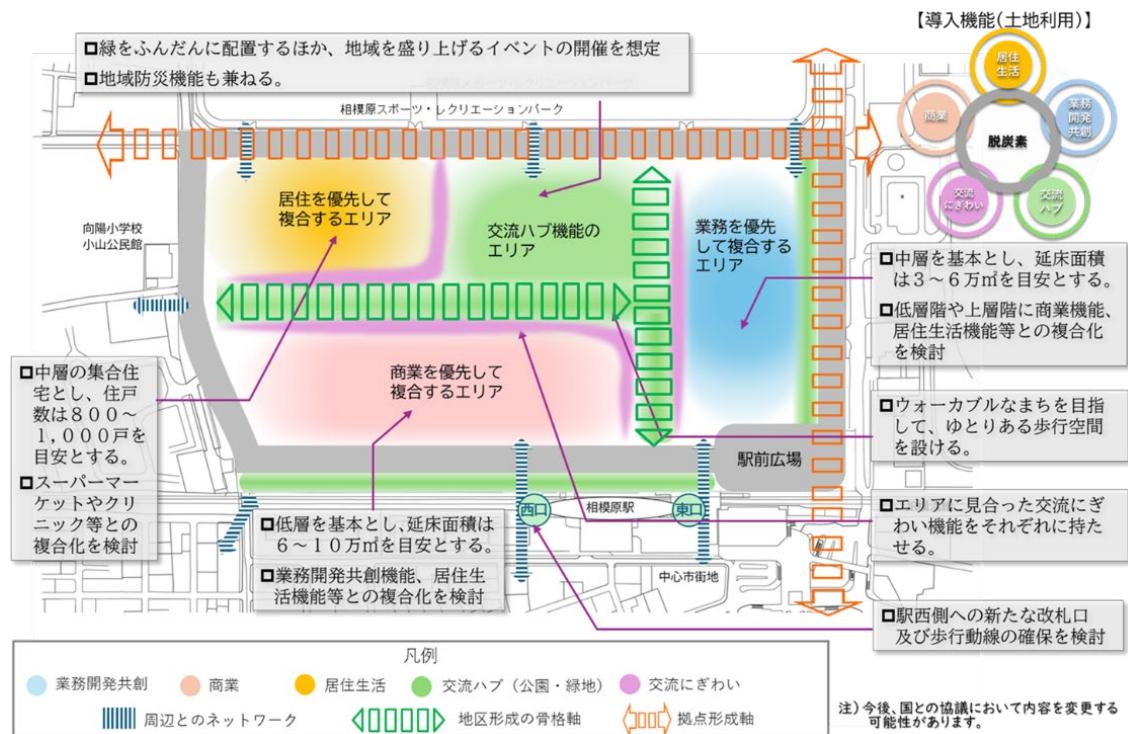


そのため、同計画では「多様な交流が新たな価値を生み出す、グリーン×ライフ×イノベーションシティ」というコンセプトを掲げ、以下の5つの基本方針の下、駅前にオフィスビルを配置するなど業務系の用途に重点を置いた土地利用を図ることとしています。

- 5つの導入機能（業務開発共創、商業、居住生活、交流ハブ及び交流にぎわい）を適正に配置することに加え、施設用途の複合化によりまちのにぎわいや交流の創出を目指します。
- 企業等の進出と併せて先端技術の導入を図ることにより、多様な交流をうみだし、継続的にイノベーションが創出されるようなまちを目指します。
- 環境に配慮したまちづくりを行う中で、各街区をつなぐようにグリーンインフラとしての緑をふんだんに配置し、多様な交流の場として利用するほか、エネルギーを含めた脱炭素型まちづくりを目指します。
- ウオーカブルなまちを目指して、ゆとりある歩行空間を設けることや新たなモビリティの導入を検討することにより、生活利便性の向上、健康の増進及び安全・安心の確保を目指します。
- 周辺環境に配慮するとともに、ヒューマンスケールなまちとして、中低層・低密度のまちづくりを行うことにより、憩い・安らぎ及び生活の質の向上を目指します。

②土地利用計画図等

上述のまちづくりの基本方針や導入機能等を踏まえた土地利用計画図、土地利用のイメージを以下に示します。



○ 土地利用のイメージ



○ イメージパース



注) これらの画像はOpenAIの生成AI「DALL-E 3」により、令和7年5月27日に作成されたものであり、イメージとして作成されたもので、実在の人物・場所とは関係ありません。

注) 本地区の将来の土地利用のイメージを示したものであり、施設配置や高さなどについては、今後変更となる可能性があります。

③周辺道路網の整備

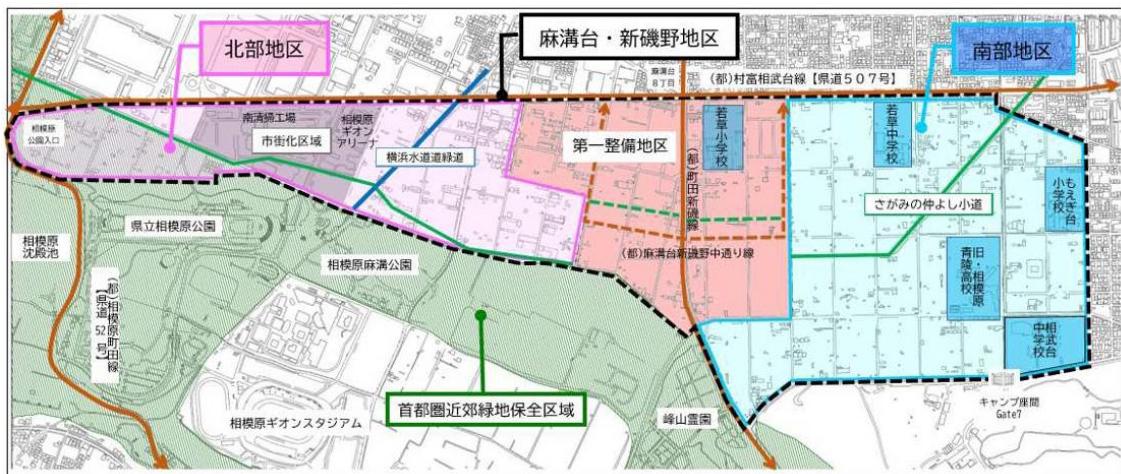
当該地区の周辺道路網については、慢性的に渋滞が発生するなどの課題があり、駅前の大規模な土地としての価値や企業等の進出意欲を最大限に高めるためにも、JR横浜線の連続立体交差化を含め、周辺道路ネットワークを検討していくこととしています。

III. 麻溝台・新磯野地区の土地区画整理事業による新たな都市拠点の形成

(1) 麻溝台・新磯野地区の概要

麻溝台・新磯野地区は、圏央道相模原愛川インターチェンジから約3kmに位置し、周辺には住宅地、工業団地、緑豊かな公園が広がる約148haの広大な地域です。

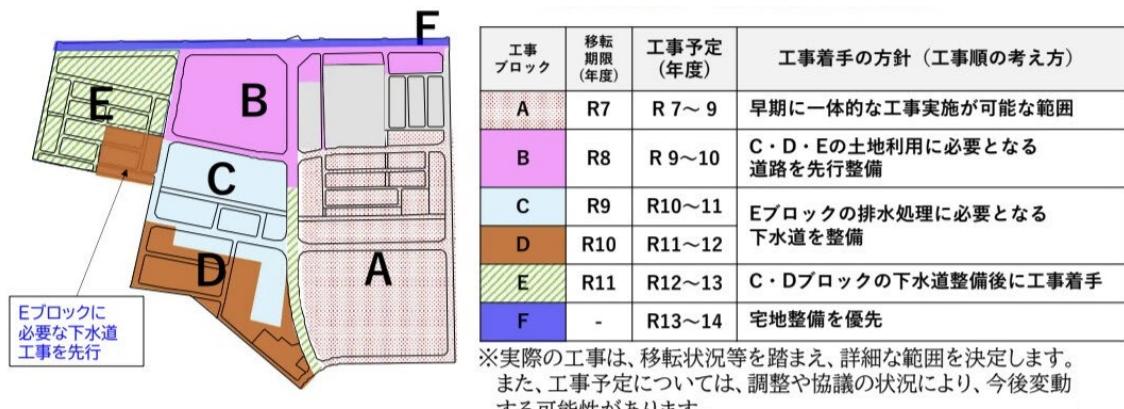
2013年の圏央道相模原愛川インターチェンジ開通により交通利便性が大きく向上したことを受け、本市では、この地域を「産業・みどり・文化・生活が融合した新たな都市づくりの拠点」として位置づけ、土地区画整理事業を中心としたまちづくりを進めています。



(2) 第1整備地区における取組み

幹線道路が交差する地区中央部の約38ha（地権者約400名）は、「第1整備地区」として、市施行の土地区画整理事業により先行して整備が進められていますが、大量の地中障害物の発出等の問題により、2019年に事業は一時立ち止まりました。内部検証や第三者委員会の指摘を踏まえて事業計画の見直しを行い、2022年5月に事業再開を決定した後は、廃棄物混じり土の処理、土地利用意向調査を踏まえた換地設計の見直しなど、事業再開に向けた取組を進めてきました。

2024年度に都市計画・事業計画の変更、仮換地指定の取消・再指定を行い、2025年度から、本格的な都市基盤整備工事を再開したところです。2032年度の工事完了、まちびらきを目指して、事業を進めていきますが、基盤整備工事が完了したところから順次、使用収益を開始していく予定です。



第1整備地区における基盤整備工事のスケジュール

(3) 北部・南部地区における民間活力の活用と早期事業化の検討

第1整備地区以外の北部・南部地区については、2021年に、民間活力による市街地整備を誘導し、産業系土地利用を前提としたまちづくりを進める旨決定し、市と地権者組織、事業検討パートナーが連携し、組合施行による土地区画整理事業の早期事業化に向けた取り組みを進めています。

北部地区は約42haの規模で地権者は約300名、南部地区は約68haの規模で地権者は約550名となっており、それぞれ2024年に土地区画整理準備委員会が設立されました。両地区ともに、2025年度内に土地区画整理準備組合の設立を予定しており、現在、事業検討パートナーとともに、地権者の合意形成に向けた取組が進められています。

おわりに

本稿では、緑区、中央区、南区の各まちづくり事業を報告させていただきましたが、それぞれ、多くの関係者を抱えるビッグプロジェクトであり、10年後、20年後のまちの姿を思い浮かべつつ、職員一丸となって取り組んでいます。

その他の最近の大きな話題としては、バス路線の廃止・撤退が挙げられます。緑区の中山間地域を走っている13のバス路線のうち11路線が2027年3月までに廃止されることとなり、市民の生活の足をどのように確保していくかが課題となっています。

2025年10月より、従前の乗合タクシーの区域を大幅に拡大して実証実験を開始したところですが、登山客の移動需要など、まだまだカバーしきれないエリアや時間帯があり、地域の輸送資源を活かしながら、どう対処していくか、府内でも部局横断的に議論をしているところです。

インド建設産業振興評議会事務局長の表敬訪問

【日時】 2025年11月13日（木） 11:15～12:00

【場所】 建設経済研究所 会議室

【出席者】 インド建設産業振興評議会 (CIDC)

－Dr. P.R. Swarup 事務局長

建設経済研究所 (RICE)

－吉田理事長・麓研究理事・富永研究員・斎藤研究員

2025年11月13日、インド建設産業振興評議会 (Construction Industry Development Council¹,以下「CIDC」という。) のDr. P.R. Swarup 事務局長が、当研究所の吉田理事長を表敬訪問された。CIDC は「アジアコンストラクト会議²」への長年の参加機関であり、我が国を始め参加国機関と各国の建設業の現状や課題について情報交換を行っている。当日は45分間という短い時間であったが、互いの関係性を改めて確認した。

吉田理事長は、インドが日本にとって最大のODA 援助対象国であることや、地下鉄や高速鉄道、港湾などのインフラ事業で多くの日本の建設企業がインドに進出していることに触れつつ、「国内では深刻な担い手不足や資材価格・人件費の高騰といった課題に直面している」と説明。そして、これらの課題解決に向け、アジアコンストラクト会議や二国間コミュニケーションを通じた意見交換の継続に期待を寄せた。

これに対し、十数年ぶりの来日となったSwarup 事務局長は、「インドでも技能労働者から技術者、監督者まであらゆる層で人材不足が深刻化している」と現状を説明。CIDC がこれまで約100万人の建設労働者を訓練してきた実績を紹介するとともに、「日本語教育を含め、日本市場のニーズに合わせた人材育成が可能だ」と述べた。

非営利組織である両機関は、相互の国の建設業が抱える課題の解決に向け、引き続き協力していくことを確認し合った。

¹ インド建設業の発展を目的に、1996年にインドの政府計画委員会と建設業界が共同で設立した組織である。政府への政策提言のほか、工事契約や手続きの標準化、技能労働者の人材育成、建設会社の格付け、技能労働者の福利厚生の充実、契約紛争処理のための仲裁センターの設立、技術革新の推進やデータベースの整備等に取り組んでいる。

² 1995年に当研究所の提唱により設立された。東アジア・東南アジア諸国の研究機関等が参加し、建設経済及び建設市場動向に関する情報交換を目的とした国際会議であり、参加国機関の持ち回りにて原則年に1回開催されている。



情報・意見交換の様子



参加者の集合写真



Swarup 事務局長と吉田理事長

(担当：研究員 斎藤 めぐみ)

建設経済研究所 講演会（開催報告）

当研究所では毎年著名な講師をお迎えし、公開講演会を開催している。本年度は、12月5日に、東京大学大学院経済学研究科・経済学部の柳川範之教授をお招きし、「AI時代のキャリア再設計とリスキリング」と題して講演をいただいた。当日は来場とWEB視聴を併用し、多数の方に参加いただき、当研究理事長 吉田光市からの挨拶に続き、講演会を実施した。

柳川教授のご講演では、これからAIが進化しようとも、人とAIの補完関係は変わらず、大切なことは「技術導入ではなく、業務分担の見直し」であること、また、これから的人的資本の大きなポイントは「経験をしっかり武器にすること」「既存の概念を壊す仕掛けをつくること」「企業の枠、部署の枠を超えた人材ネットワークの形成」「今までの概念を壊すためのダイバーシティの実現」「今までの価値基準からの脱却＝アンラーンの必要性」など、さらに、職を替わろうとする者は、新たなスキルを身に着けるだけではなく、これまでの概念を壊し新たな環境に自ら適応させる努力をすることが重要という内容であった。

【開催概要】

日 時 2025年12月5日（金）14:00～15:30

場 所 浜離宮建設プラザ 10階大会議室（ウェブ配信併用）

講 演 「AI時代のキャリア再設計とリスキリング」

東京大学大学院 経済学研究科・経済学部 柳川 範之 教授



講演する柳川教授



吉田理事長の冒頭あいさつ



会場の様子

（担当：研究員 鈴木 詩乃）

命を見せる動物園の作り方

1. はじめに

「今日はどこにいくの？」小さな瞳はキラキラと輝き出す。週末の我が家である。冬も近く午前 6 時。まだ薄暗い。

「今日は、ライオンさんに会いに行く！」先週は、ゾウさんだった。先々週は、キリンさん。小さな体にいっぱいの期待を抱え、毎週末、動物園への熱い想いを募らせるのだ。かつて、私も幼いころに目を輝かせていた動物園。20 年ぶりに足を運ぶと、当時とは違う、多くの発見と驚きがあった。

ジャングルのような緑が生い茂る展示、岩肌を模したダイナミックな構造物。一見すると自然そのものに見える動物園の風景は、季節、時間帯、天気など様々な要素が重なり、ふたつとない今日の日に、動物たちは毎週違った姿を見せてくれる。また動物園か。と思いつつも不思議なことに飽きが来ない。

そういえば、この環境は誰がどのようにして作り上げているのだろう？小さな瞳に宿る動物園熱に突き動かされた私は、動物たちの快適な暮らしと来園者の感動体験を支える、「動物園建設」に光を当てることにした。なお、文中で述べる意見は、筆者の個人的な見解であり、当研究所の見解とは異なることをご留意いただきたい。

2. 動物園の歴史

(1) 権力の象徴である所有から、娯楽としての公開へ

そもそも、動物園の原点は古代文明時代に遡るといわれる。いかに多くの、またいかに珍しい動物を所有しているか、が権威の象徴とされる価値観が生まれた。

紀元前 2000 年以上前のメソポタミア文明において、王族たちの中で人気が高かったライオンは、堀で飼育されていたといわれている。また、インダス文明では各国との貿易により、王の動物コレクションの中には、ライオンの他に、ゾウ、サイ、サル、ラクダ、ガゼル、シカなど様々な国の大動物もいたという。

このように、珍しい動物を収集することが権力や富の象徴であった価値観は、18 世紀ごろまで続く。

現存する世界最古の動物園は 1778 年、フランス 1 世による「シェーンブルン宮殿動物園」(オーストリア)といわれている。権威の象徴である「所有」ではなく、「公開」という機能を初めて持ったといわれているからである。女帝マリア・テレジアが全施設を一般「公開」した。この「公開」が、それまでは基本的に特権階級の人たちだけのものだったメナジエリー¹を、庶民が楽しめる動物園へと変えた大きなきっかけであったとされる。展示方法は非常に簡素で、檻や囲いの中に動物を閉じ込める形が一般的であり、動物の生態や福祉へ

¹ 「menagerie」とは、フランス語の「ménagerie」から派生した言葉で動物園や動物のコレクションを指す英単語。

の配慮はほとんどなかった。その他にもフランスでは、ルイ 14 世が「ヴェルサイユ宮殿のメナジェリー」を建造。王侯貴族のコレクションとしての動物園であったが、当時としては斬新な、動物を集中配置して、観賞用に特化させたものだった。

18 世紀後半に誕生したとされる「ジャルダン・デ・プラントの動物園」である。フランス革命の後、ヴェルサイユ宮殿のメナジェリーが解体され、そこで飼育されていた動物たちが、ここに移された。この施設は、科学研究と教育を目的とした動物園であり、「新たな自由国家と科学意識の象徴」として設計された。檻が並ぶきっちりとした中央集権的なデザインは従来のような王のメナジェリーを思わせるとして避けられ、大規模な円形で迷路のように、入り組んだ道で構成されたものだった。

19 世紀～20 世紀初頭になると、民間向けの娯楽、教育を目的とした公開施設として、都市部に動物園が登場し始める。近代動物園は、ロンドン動物園（1828 年開園）をもって成立したとする見方が一般的である。近代の動物科学に基づいた運営がなされ、市民に「公開」されていることが特徴であり、展示方法も、より広いスペースや地形を模した展示スタイルが登場てくる。

（2）日本における動物園の発展

日本の動物園の歴史は、江戸時代に遡る。当時は「動物園」と呼ばれる施設は存在しなかったが、孔雀茶屋や花鳥茶屋など、飲食店で美しい鳥や珍しい動物が見世物として飼われていた。1866 年、福沢諭吉の著書「西洋事情」²で「動物園」という言葉が紹介されたことをきっかけに、西欧の近代的な概念が広まったとされている。

その後、1882 年に日本初の動物園「上野動物園」が開園した。ウィーン万国博覧会出品のため、各地から集められた動物など約 30 種を、終了後国内に持ち帰り、一般公開したことがきっかけだった。

上野動物園の開園を受け、京都動物園（1903 年）、大阪天王寺動物園（1915 年）、鶴舞公園動物園（1918 年）、名古屋市東山動植物公園（1937 年）など全国で次々と開園された。戦時には多くの動物園が閉鎖されたが、戦後の復興とともに再開され、各国から寄贈された動物が平和外交の象徴として展示されるようになった。

その後、動物園は単なる娯楽施設ではなく、動物の生態を学ぶ教育施設としての役割も担うようになる。

² 西洋事情. 初編. 一 (Things western) 1866 年 尚古堂 出版

図表1 『摂津名所図会』(巻二、1778年)の「孔雀茶店」



(出典) 国立国会図書館デジタルコレクション

図表2 日本初の動物園「上野動物園」の1907年ごろの正門



(出典) 上野動物園公式HP <<https://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/>>

3. 日本の動物園の現状

(1) 動物園の数

現在、公益社団法人日本動物園水族館協会の加盟館は140あり、そのうち91が動物園である。動物園、水族館どちらの要素も兼ね備えた施設もあるため、この二つの線引きは曖昧であるが、日本は世界第5位の数を保有³しており、非常に多くの動物園があると言えるだろう。

³ WORLD POPULATION REVIEW, ZOO by Country 2025 参照
<<https://worldpopulationreview.com/country-rankings/zoo-by-country>>

総合ユニコムの「レジャー施設の入場者数ランキング（2024年度）」によると、入場数の多い動物園は以下のとおりである。

図表3 動物園入場者数ランキング 2024年度

順位	施設名	所在地	入場者数(人)
1	東京都恩賜上野動物園	東京	3,362,664
2	名古屋市東山動植物園	愛知	2,892,427
3	天王寺動物園	大阪	1,697,555
4	旭川市旭山動物園	北海道	1,396,180
5	東武動物公園	埼玉	1,242,898

(出典) 総合ユニコム HP を参考に筆者にて作成 <<https://www.sogo-unicorn.co.jp/databook/n0520251001/p01/>>

(2) 動物園の経営形態と経営方式

日本の動物園は、都道府県や市町村が主体となり、直営・指定管理者制度・業務委託（地方独立行政法人/民間企業）のいずれかの方式で運営される「公立経営」が多くを占めている。例えば、東京都の上野動物園は「東京動物園協会」⁴を指定管理者としている。一方、静岡市の日本平動物園は自治体⁵による直営である。このように、公立動物園の運営体制は施設ごとに異なっている。

動物園の事業収益に加え、税金や寄付によって運営されるのが一般的で、事業収益のみでは赤字となるケースが多く見られる。入園料は低価格または無料で、中学生以下が無料の施設も多数ある。

以下に施設の経営形態とそれに伴う経営方式についてまとめる。

図表4 経営形態とそれに伴う経営方式

経営形態	運営管理	施設整備・大規模改修
市直営	市から委託	入札
指定管理者制度	指定管理者	入札/PFI
業務委託	地方独立行政法人/民間企業	入札/PFI

(出典) 筆者にて作成

⁴ 恩賜上野動物園（上野） 多摩動物公園（日野市） 葛西臨海水族園（江戸川区） 井の頭自然文化園（東京都武蔵野市）の4施設を管理運営する

⁵ 静岡市運営の市立動物園

4. 新しい動物園の設計思想「行動展示」

(1) 展示方法の種類

2. で述べた通り、動物園の展示方法は時代とともに進化してきた。近代の動物園は、「行動展示」が主流となってきており、従来の「形態展示」や「生態展示」と異なり、動物が活発に動く様子を見せることで、来園者に生態理解と環境保全意識を促すと同時に動物愛護の考え方も大切に取り入れられている。

図表 5 展示方法の特徴

展示方法	特徴	動物への影響	来園者の見方
形態展示 (従来型)	檻やコンクリートで囲い、動物そのものを見やすく配置	ストレスが大きく自然な行動が見られにくい	間近で容易に観察可能
生態展示	生息環境を再現、植生・岩場・水場を設置	自然に近い環境で生活が可能	ガラス越しや遠隔から観察
行動展示 (近年の主流)	動物本来の行動を引き出す仕掛けを設置	動物福祉向上、教育効果が高い	動きや行動を楽しめる

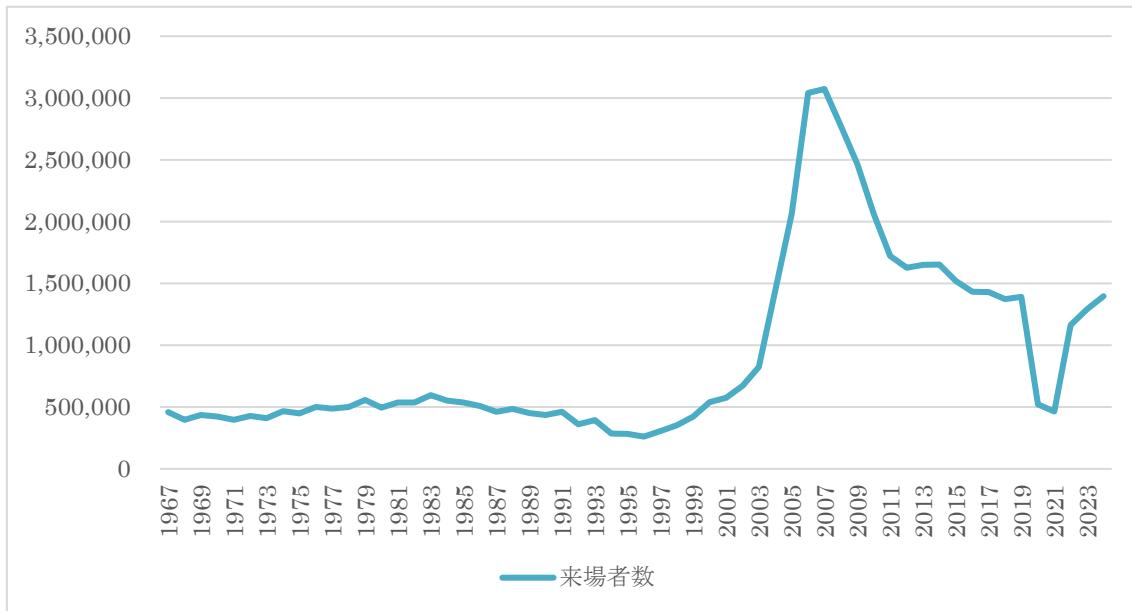
(出典) 太陽テック工業公式 HP を参考に筆者にて作成 [\(https://www.ttkk.co.jp/\)](https://www.ttkk.co.jp/)

(2) 日本初「行動展示」を本格導入した旭山動物園

運営	北海道旭川市
場所	旭川市東旭川町倉沼 11-18
料金	大人(個人通常)1,000 円、中学生以下 無料

1967 年、日本最北の動物園として開園。その後、従来の檻型展示では動物の魅力が伝わりにくく、来園者数は低迷、閉園の危機に追い込まれるも、動物本来の行動を引き出す「行動展示」を考案。「行動展示」を日本で初めて本格導入した動物園として、再生した。この改革により、年間入園者数は平成 8 年の最低水準から 10 倍以上に増加。ピーク時 (2006 年頃) は約 300 万人を記録した。コロナ禍で一時落ち込んだものの、現在は回復し、その後は安定的に推移。動物のありのままの姿を見せ、命の尊さを伝えることを目的としている。

図表 6 旭山動物園年度別入園者数



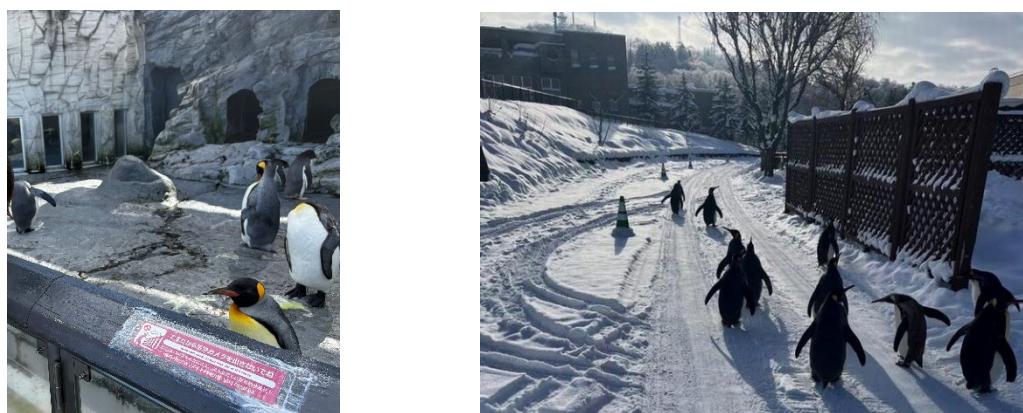
(出典) 旭山動物園公式 HP の資料を参考に筆者にて作成

① ペンギン館 (2000 年開設)

株式会社橋本川島コーポレーション(施工)

水中トンネルを設け、ペンギンが空を飛ぶように泳ぐ姿を 360°観察可能。冬季には「ペンギンの散歩」を実施し、自然な移動習性を活かしたイベントとして人気。

図表 7 すぐ目の前でペンギンを見ることができるペンギン館 (左)、
「ペンギンの散歩」の様子 (右)



(出典) 筆者による撮影 (2025 年 10 月 27 日) (左)

旭山動物園公式 HP <<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/>> (右)

② ほっきょくぐま館（2002年開設）

株式会社 TSUKURU(モルタル疑岩施工)

大水槽と放飼場を組み合わせ、ダイブや遊泳を間近で観察できる。氷下のアザラシ視点を再現した「シールズアイ」では、「もぐもぐタイム」という餌やり時間を設け、お客様が捕食されるアザラシの視点で、氷上からダイブしてくる瞬間を見ることができる。

図表8 もぐもぐタイム（左）、放飼場の様子（右）



（出典）筆者による撮影（2025年10月27日）

③ あざらし館（2004年開設）

吉宮建設株式会社（施工）

あざらし館は3階建てとなっており、中には円柱水槽（マリンウェイ）が設置され、360度の角度から円柱内を上下移動するあざらしを見ることができる。また出口の2階に上がるとプールがあり、そこではもぐもぐタイムなど飼育員による動物紹介イベントが行われる。

図表9 あざらし館外観（左）、マリンウェイ（右）



（出典）旭山動物園公式HP（<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/>）（左）

太陽テック工業（<https://www.ttkk.co.jp/>）（右）

④ かば館（2013年開設）

吉宮建設株式会社（施工）

カバの屋内放飼場は深さ約3mのプールがあり、壁や床がアクリルで作られている。水中でのカバの動きをあらゆる角度から観察できる。

図表10 かば館内観



（出典）筆者による撮影（2025年10月27日）

⑤ えぞひぐま館（2022年）

創環境デザイン（設計） 株式会社廣野組（施工）

「ヒグマと共に暮らす未来」をコンセプトに、自然と人間社会の距離感を再認識させる展示がテーマ。屋外は、奥行きのある敷地に北海道の在来樹木を植栽。淡水魚が泳ぐ渓流を設置し、従来のエサやりではなく、渓流に魚を流し、ヒグマが水場で漁をする様子を観察可能。屋内はガラス一枚で仕切られた観察窓から、迫力ある姿を間近で見られる。

展示されているヒグマ「とんこ」は、中頓別町で母熊と共に人里に出没し、母熊は駆除され、保護された子熊である。この背景も人間と野生生物を考えさせられる事例として深く結びつけられている。

図表11 えぞひぐま館外観（左）、人工渓流（右）



（出典）筆者による撮影（2025年10月27日）（左）

旭山動物園公式HP <<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/>>（右）

旭山動物園は、多くの行動展示施設があるが、これは高度な建設業の技術によって実現されている。例えば、ほっきょくぐま館では、ホッキョクグマの住む北極の岩肌を再現するために、モルタル疑岩技術が採用されている。これは、自然の質感を再現しつつ、ホッキョクグマの体に傷がつかないよう表面の硬度を調整し、また、日本特有の寒暖差に耐えるために、基礎構造には凍結深度を考慮した設計がされた。

さらに、ほっきょくぐま館、あざらし館など様々な施設で使われている大水槽のアクリルパネルは厚さ約10cm以上、特殊接着技術で水圧に耐える構造である。こうした技術は、動物福祉と安全性を両立させるために不可欠であり、建設業の精緻なノウハウが凝縮されている。

5. 日本の代表的な動物園

(1) 上野動物園(東京都台東区)

1882年、農商務省所管の博物館付属施設として開園した日本で最初の動物園。1972年、日中国交回復を記念しジャイアントパンダが来園。以降、パンダは上野動物園の象徴となる。2020年9月オープンの「パンダのもり」では、パンダの原産地である四川省の山岳地帯を模したランドスケープを構築。借景、起伏地形、ガラス・堀による展示方法など、建築と景観の融合が見られる。⁶

「パンダのもり」(2020年)

施工：株式会社 トヨー建設

構造・規模：RC造、地上一階建

延床面積：1,033.32 m²

図表 12 パンダのもり外観



(出典) トヨーホールディングス公式ウェブサイト<<https://toyo-group.com/>>

⁶ 上野動物園公式HP参照 <<https://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/>>

(2) 円山動物園(北海道札幌市)

1950 年、札幌市は上野動物園から移動動物園を招く。この移動動物園の反響を受け、1951 年、北海道で初めての動物園として開園。

その後、動物の充実と施設の整備が進められ、1974 年には当時の札幌の総人口に匹敵する約 124 万人もの入園者が訪れるまでになり、札幌市民の憩いの場としての地位を確立した。

2024 年 5 月オープンの「オランウータンとボルネオの森」では、熱帯雨林環境を再現。飼育員の日常業務や導線を加味するために、設計担当は、給餌や清掃などのオランウータン飼育体験を行った。また、新施設の室内気候デザインについては、オランウータンにとってよりよい環境を提供するために、札幌市立大学デザイン学部 都市・建築環境デザイン研究室（齊藤雅也教授）による委託研究を実施し、その研究結果を設計に反映させた。放射式温水暖房、人工降雨設備、アースチューブによる地熱換気など、建築設備が高度化。動物福祉に配慮し、動物が自ら行動や環境を選択できる設計が採用されている。⁷

「オランウータンとボルネオの森」(2024 年)

設計：株式会社 大建設設計

設備設計：株式会社 北日本技術コンサル

施工：伊藤組土建 株式会社

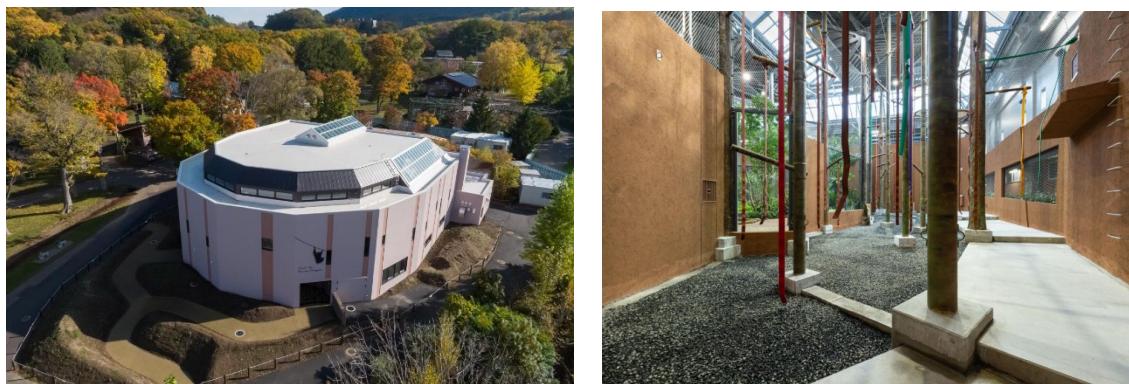
室内気候デザイン監修：札幌市立大学 デザイン学部（齊藤 雅也 研究室）

構造・規模：RC 造一部鉄骨造 地下 1 階、地上

延床面積：1,347.73 m²

最高高さ：11.945m

図表 13 オランウータンとボルネオの森外観（左）、内観（右）



（出典）伊藤組土建株式会社公式ウェブサイト<<https://www.itogumi.co.jp/>>

⁷ 円山動物園公式 HP 参照 <<https://www.city.sapporo.jp/zoo/>>

(3) 多摩動物園（東京都日野市）

1958年開園。日本で最初の「柵がない」ことを観覧の基本とした動物園。50haを超える園内には、「アジア園」「オーストラリア園」「アフリカ園」「昆虫園」4つのエリアがあり、約260種の動物を飼育している。

広大な敷地の中にいるライオンの群れをバスに乗って観覧することができる世界初のライオンバスや、自然のままの温室空間を構築した昆虫生態園など、当時では、先進的な取り組みを行ってきた。

アジア園にあるアジアゾウ舎は、環境と観覧との融合を図るために、様々な専門家や飼育員の意見を参考に設計された。屋内放飼場はゾウだけでなく飼育員動線の安全性に考慮されている。⁸

「アジアゾウ舎」（2017年）

設計：株式会社 総企画設計

施工：共立建設 株式会社

構造・規模：RC造 一部S造 地下2階 地上1階(メス舎)RC造 地上2階(オス舎)

延床面積：2,752.25 m²

図表 14 アジアゾウ舎運動場（左）、ゾウ舎鳥瞰（右）



（出典）共立建設株式会社公式ウェブサイト<<https://www.kyoritsu-con.co.jp/>>

(4) 東山動植物園（愛知県名古屋市）

1918年に鶴舞公園で「名古屋市立動物園」として開園。1937年に現在の東山の地に移転して「東山動植物園」となる。

2013年オープンの、アジアゾウのふるさとスリランカをイメージした新しいアジアゾウ舎「ゾージアム」は、国内最大級の広さ（3,350 m²）を誇り、ゾウのメスを群れで飼育できるようになり、オス専用の飼育スペースも確保された。運動場には大プール、寝室はミスト

⁸ 多摩動物園公式HP参照 <<https://www.tokyo-zoo.net/zoo/tama/>>

や自動温水シャワーが完備され、ゾウの足のケアのため床面を樹脂にするなど動物福祉にも配慮して設計された。また、ゾウの保全、ゾウの生態、ゾウ列車についても学べる展示も併設し、来園者が東山のゾウについて楽しく知ることができるようになった。この「東山動植物園アジアゾウ舎運動場整備工事」は「第30回都市公園コンクール」において技術が高く、今後の都市公園の模範となる作品として、国土交通大臣賞を受賞した。⁹

「ゾージアム」(2013年)

設計：名古屋市緑政土木局 東山総合公園再生整備課

施工：株式会社 本陣

施工面積：6,000 m²

図表15 ゾージアムメス舎内観（左）、運動場（右）



（出典）東山動植物園公式ウェブサイト<<https://www.higashiyama.city.nagoya.jp/>>

6. おわりに

近年、レクリエーションの多様化により、動物園はかつての「娯楽施設の代表」という立場を失いつつあっただろう。しかし、現在の動物園は多様な工夫を凝らし、単に動物を見て楽しむ場ではなく、生き物を守る大切さを伝える教育的な役割を担っている。こうした新しい展示方法は、高度な設計や建設技術、材料の進化などによって実現可能となったものが多く、「環境再現」「動物福祉」「来園者体験」の三軸と、多角的な役割を担う現代の動物園を陰で支えている。

何よりも、机上の学習では得られない「体験」がもたらす影響力は計り知れない。例えば、地球温暖化防止や脱炭素の重要性を頭では理解していても、日常生活の中でその実感を得ることは難しい。

北海道の旭山動物園を見学した際に目にした、ホッキョクグマの「もぐもぐタイム」で勢いよく水中にダイブする姿に心を奪われた体験は、今でも鮮明に覚えている。しかし、生息地の北極では、温暖化の影響で氷が早く解け、狩りの期間が短縮されてしまい、冬を越せな

⁹ 東山動植物園公式 HP 参照 <<https://www.higashiyama.city.nagoya.jp/>>

い個体が増えている。氷の下から顔を出すアザラシを捕食する機会も減り、食料確保が困難になっているという。当たり前に、動物園で親しまれている人気者のホッキョクグマを、将来見ることができなくなってしまうかもしれないのだ。

建設業は、人間の便利さを支える一方で、自然破壊と表裏一体の存在である。建設業に携わる人間として、この動物園という存在が、地球全体の問題に向き合う最も身近な施設なのかもしれない。子供のころに感じたあの感動を、大人の今だからこそ、新鮮な気持ちで再体感してみてはどうだろうか。

(担当 : 研究員 鈴木 詩乃)



研究所までの通勤時間は片道およそ1時間45分。そのうち1時間以上を電車に揺られて過ごしている。電車の中ではスマートフォンで、ニュースやSNSをダラダラと見ることもあれば、ラジオや音楽を聴きながら時間をつぶしていることが多かった。しかし、次第にそうした時間の使い方を、もったいないと思うようになり「頭のいい人はたくさん本を読む。」という、どこかで聞いた話を思い出し、本を読んでみようと思い立った。

はじめに言っておくが、私は読書が苦手だ。幼少期からずっとスポーツ中心の生活を送っており、本を読む時間があれば体を動かしていたいと思うタイプだった。小学校の読書感想文なども、映像化された小説を活用して、できるだけ簡単に済ませていた。大学を卒業し、新入社員の頃に読書に挑戦したことあったが、1冊読み切れずに挫折してしまった。そんな経験から大人になってからも本を読む習慣は身につかず、年間1冊も読まないほど、読書とは無縁の生活を送っていた。

そんな私だが、まずは本を買うところから始めた。哲学書やビジネス書は自分でハードルが高いように感じたため、親しみやすい小説を選んでみた。また読書に挑戦しても1冊読み切れないだろうと思ったが、とりあえず行動しようと思い、通勤時間を活用しての読書生活が始まった。ところが、読み始めてみると驚くほどスラスラと、また夢中になって読み進めることができ、あっという間に1冊読み終わってしまった。もちろん手に取った小説が面白かったのもあるが、読書嫌いの私がなぜ、すんなりと読むことができたのか不思議で仕方なかった。

思い返せば、研究所では公表されているレポートや資料など、膨大な量を読みこむ必要がある。特に専門用語や難しい表現なども多く、知らず知らずのうちに「読むこと」に慣れていたことが分かった。これまで“読書=苦手なもの”と決めつけていたのが、単なる思い込みだったことに気が付き、読書が楽しいということを発見できた。今では気になる本は自然と手に取り、読書習慣が身に付きつつある。

そんな話を職場になると、「この本おすすめだよ」と教えてくれる同僚が何人かいて、気になった作品を読んでいる。読み終えた後に感想を伝えると、そこから会話が弾み、自然と職場でのコミュニケーションが増えたようにも思う。少し大げさかもしれないが、こうしたやり取りを通じて、同僚の仕事以外の一面を知るきっかけとなり、相手の人柄や興味が少し見えるようになった。

読書をきっかけに職場での会話が増え、仕事の話だけでなく、ちょっとした雑談を交わしたりすることが、出向生活の中での楽しみのひとつになっている。仕事の成果だけでなく、人とのつながりを大切にしながら、異なる会社から集まる研究員の皆さんとの交流を通じて、残りの出向期間を多くの学びと経験を得られる時間にしていきたいと思う。

(担当：研究員 森田 澄)